

■SQ a 2、SQ b 2について

残念ながらどちらの質問も支持できない。時系列重視という理由でのみ妥協する。世論調査の結果には理性でなく感性的なものが含まれることは否定しない。だからといって質問に感性的な文言を多用することは良策ではない。「すぐに」や「全面的に」は明確な表現なので、調査対象者による受け止め方の差異は、大きくないであろう。しかし、「だんだん死刑を減らしていき、」という表現を対象者はどのように理解するのであろうか。①死刑判決の基準をだんだん高くすることなのか、②死刑執行の認可をだんだん減らすことなのか。「状況が変われば、」ということも対象者の想像に任せており共通の基準が提示されていない。

ただ、「どんな場合でも死刑は廃止すべきである」(5.7)と言いながら「すぐに、全面的に廃止する」(35.1)が半数を割るということから、心の揺れを明確にする目的は果たせている。つまり、SQ a 2は「即時全面廃止」SQ b 2は「絶対死刑存続」のコアを探る高等テクニックを用いた質問とみることもできる。

■Q4について

第1回検討会で提示された3択の質問には問題があるため、4択を提示した。ただ、ここで検討しなければならないことは、4択のパターンから対象者が迷わずに自分の考えを選ぶことができるかどうかである。有識者ではなく、一般有権者であること、面接調査を用いることも考慮しなければならない。(面接調査は、時間をかけて考えてもらうのではなく調査員を目の前にしてわりと早めに回答してもらうことになる)

もし難しいということであれば、第1回検討会「資料④-2」のSQ b 3をベースにしたものを全員に聞くことで妥協する。ただし、「終身刑導入にかかわらず」自分の意見を変えない人がいるので隠しコードとして該当選択肢を用意しておいたほうがよいか検討が必要である。

Q4B もし、仮釈放のない「終身刑」が新たに導入されるならば、「死刑」を廃止することに賛成ですか。反対ですか。

(ア) 賛成

(イ) 反対

(伏) 終身刑の導入にかかわらず、死刑を廃止に「賛成」

(伏) 終身刑の導入にかかわらず、死刑を廃止に「反対」

■フェースシートについて

年齢は、高齢化社会を考え、70代前半、70代後半、80歳以上のコードに変更したほうがよい。面接調査のデータ補正を考慮した属性質問(住居形態など)も可能なら検討してほしい。

■プレテストについて

第1回検討会でも発言したように、松田提案の新Q2を聞くことができれば幸いである。つまり、現Q2あるいは改変Q2の選択肢が松田新Q2のどの選択肢と対応しているか確認してみたい。

また、質問候補2案が残った場合には、その比較をする。

以上